

10 炭坑とくらし

初期の石炭採掘はほとんどツルハシで掘る小規模なもので、馬で運搬していました。

需要が増加して、炭坑で働く人も増え、大規模な炭坑に集約されて機械化が進み、ダイナマイトで岩を緩めてコールピックなどで砕く採掘方法に代わりました。坑道から炭車に載せて運び出された石炭は、女性の手で選別され、かすはボタ山に積み上げられました。

交代勤務で終日採掘する過酷な作業で、出水や落盤などの事故も起こり易く、大規模なガス爆発もありました。このため、事故を防ぐための安全装置の設置や改良が進みました。

炭坑で働く人のほかにも、専門技術者や医師などもいて、共同浴場や購買所もあった炭坑住宅には多くの人々が集まって暮らしていました。ここでは盆踊り、運動会、餅つきなどの行事などが娯楽の場でした。

また、金田駅は伊田線から糸田線が分岐し、方城炭坑や三井セメントへの引込線もある交通の要所でした。このため人の往来も多く、駅前には旅館や呉服店・魚市場・銭湯・料亭・映画館などさまざまな店の並ぶ商店街が発達しました。



▲大和館(金田駅前)



▲坑内から運び出される石炭